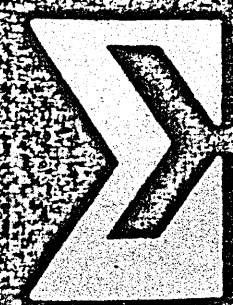


小田原市立病院建設工事設計図

第2期工事(中央診療棟)

建築工事

構造



株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

KISABURO ITOW ARCHITECTS & ENGINEERS INC.

特記事項

1	コンクリート	普通コンクリート	・設計基準強度 $f_c=240\text{kg/cm}^2$ (中央診療棟 B1F~3F床面) $f_c=210\text{kg/cm}^2$ (その他)
			※ 中央診療棟 地下部分 (底盤等) 1F床面は水圧コンクリート (水セメント比 50% 以下、スラグ 15~18cm ; 透過性混和材使用) とす。 ※ 打増しコンクリートの打増しは 20mm とす。
2	鉄筋		・SD35 — D19 ~ D29 [JIS-G-3112] ---- JIS 規格品 ・SD30 — D16 ~ D10 [JIS-G-3112] ---- JIS 規格品 ※ D19 以上は任意指定とす。 (柱、梁主筋) ※ 柱 HOOP は スパイラルアップとす。
3	鉄骨・鋼材 (鋼材)		・SM50A — 柱、梁フランジプレート [JIS-G-3105] ・SS41 — 柱、梁ウェブプレート [JIS-G-3101] ※ 柱、梁ハネルプレート (R- t_3) は SM50A とす。 [中央診療棟] ・SM41A — 柱、梁端部フランジプレート (JIS-G-3106) ・SS41 — 柱、梁ウェブプレート、梁中央フランジプレート (JIS-G-3101) ※ 柱、梁ハネルプレート (R- t_3) は SM41A とす。 [外来診療棟] ・SS41 — 柱、梁 ・SSG41 — 二次部材 ・SR24 — クレーン軌道
	高力ボルト		・F10T 建設省告示 第1795号に適合する特殊型セト高力ボルト。
	鉄骨製作		・鉄骨製作は先立ち入念な施工計画書を作成し 監督者の承認を受けて着工とす。
	鉄骨加工		
	溶接試験	[中央診療棟]	・安全と溶接部の 30% を超る溶接試験し 溶接部の耐力を確認とす。
		[外来診療棟]	・建設省告示 第1795号に適合する特殊型セト高力ボルト。
4	杭	[中央診療棟]	・杭種 HP-スクリュー杭 杭長 GL-34.0m [外来診療棟] AC杭 (A 種) 400φ 600φ GL-34.0m (プラチナ・セメントミルク工法) ・AC杭 (A 種) については「敷地調査工事実施仕様書」昭和53年版 7.1.1 ~ 7.3.1 に準じ 耐力を確認とす。 ・杭施工は先立ち入念な施工計画書を作成し 監督者の承認を受けて着工とす。
5	壁符号		・特記符号無し 外壁 W15 内壁 W12 但し B1F 内壁は全て W15 とす。
6	基礎仕様書		・建設大臣官庁営繕部「建築工事実施仕様書」昭和56年版
7	床部分		・ 
8	止水板		・地下外周部で上に接する部分の打込み部分には止水板を打込む (止水板 W=200 盛と製)

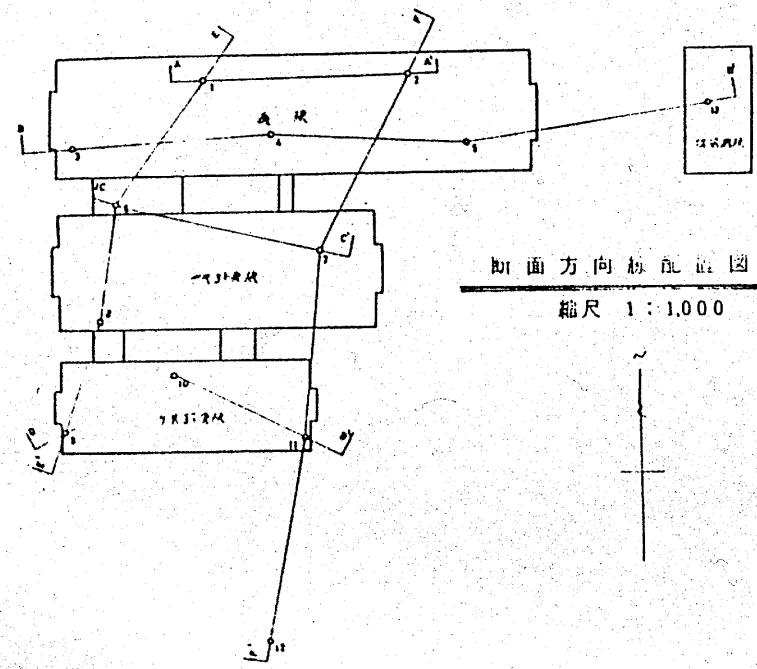
地層想定断面図

柱状図記号凡例

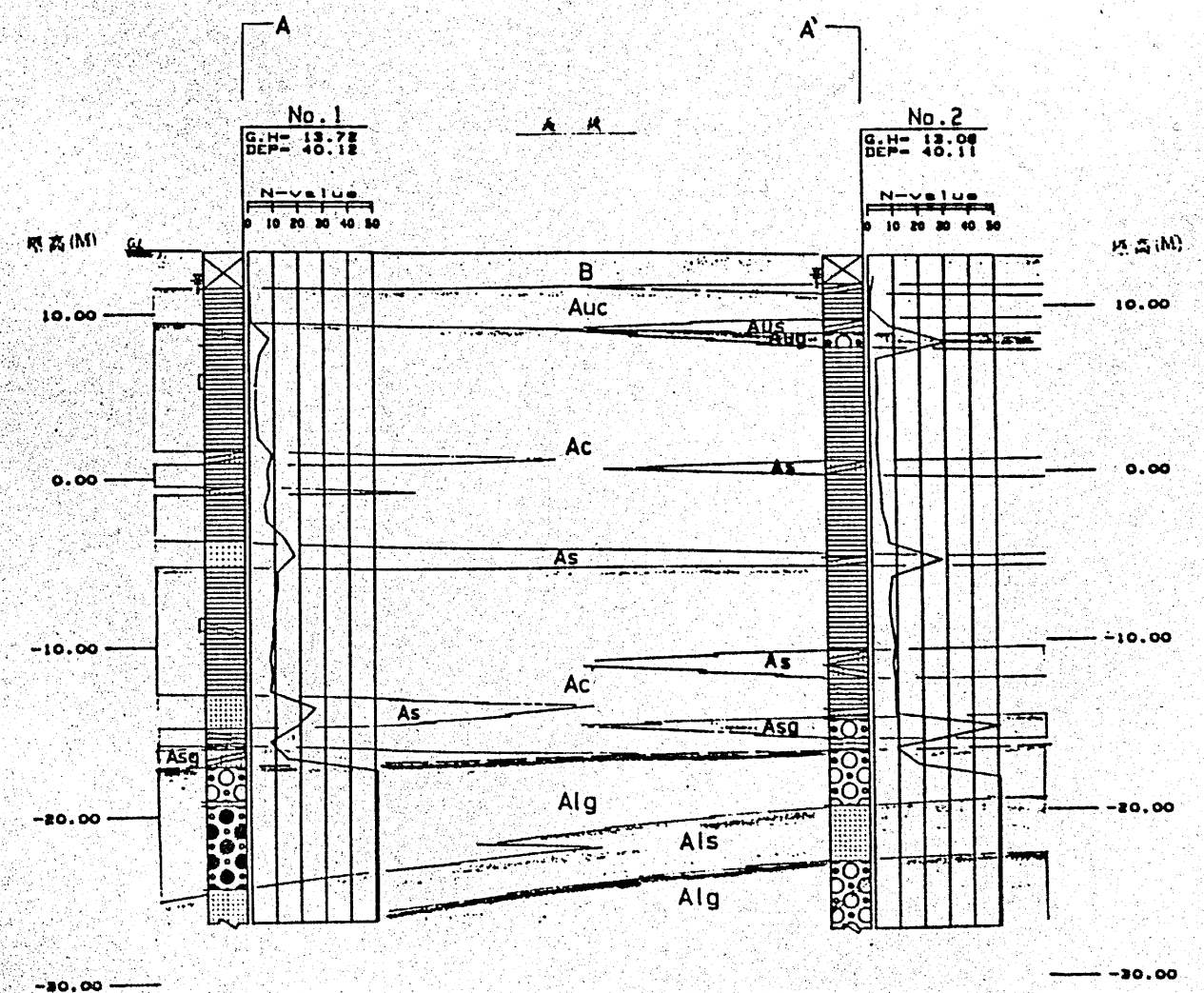
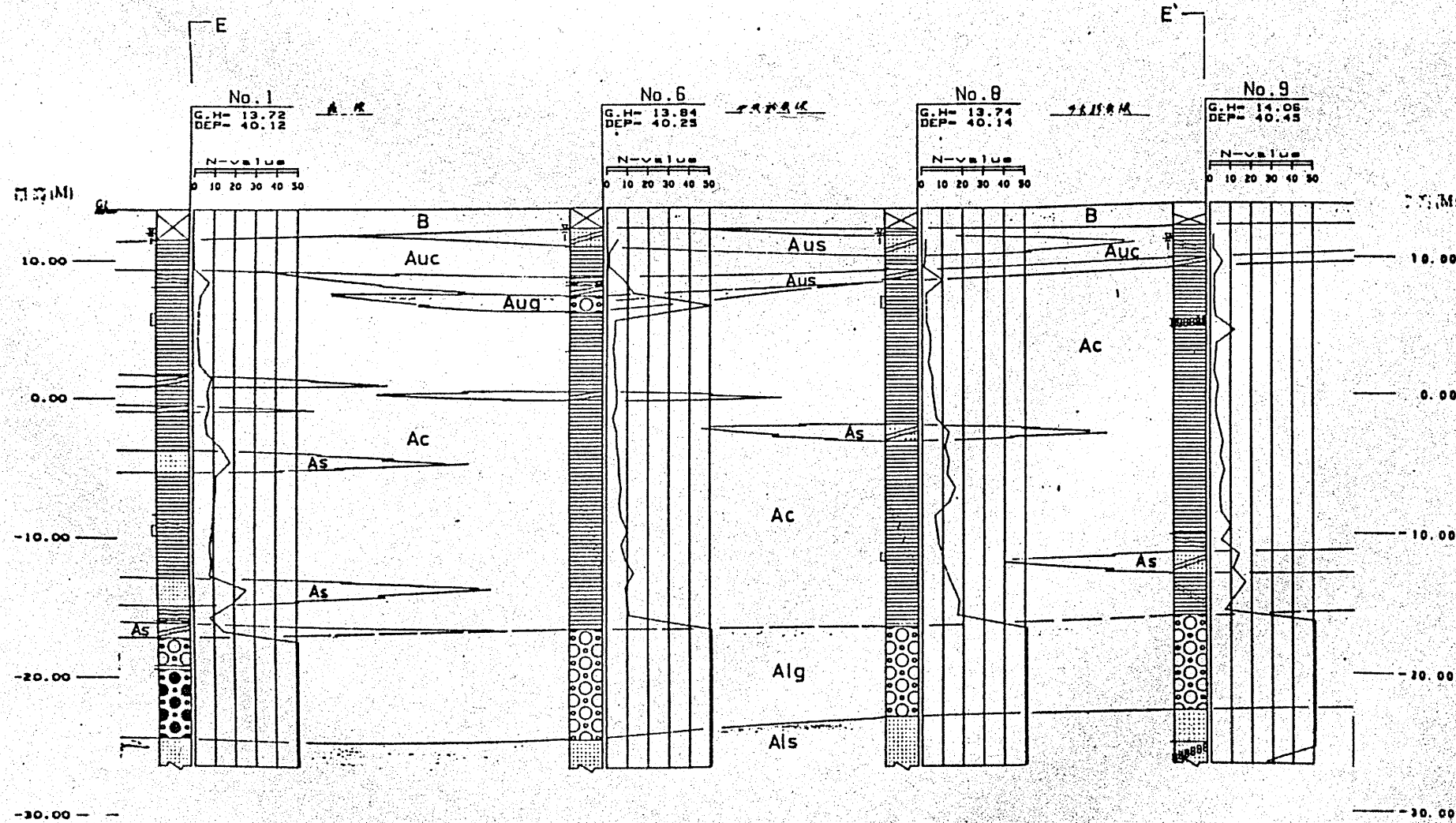
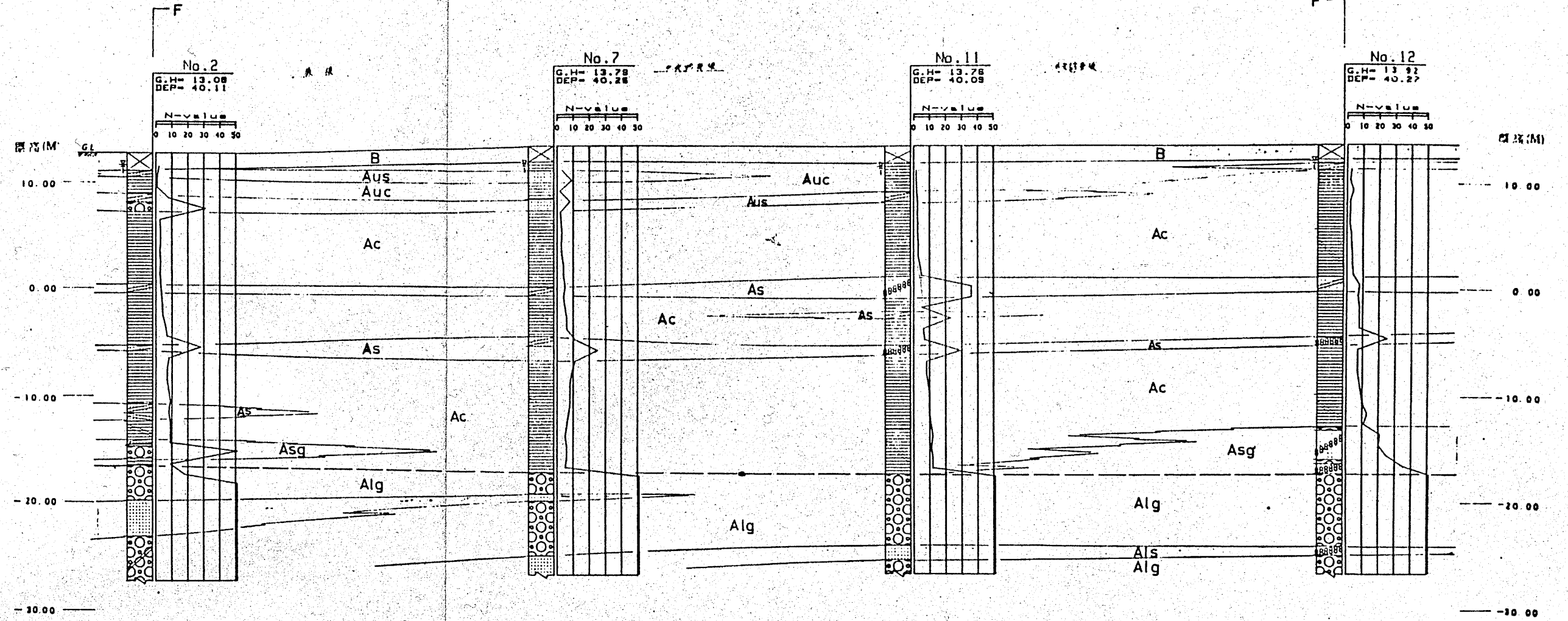
土質名	記号
埋土	■
粘土	▨
細砂、中砂	▧
粗砂	▩
砂	▪
玉石混り砂	▫
砂礫	▬
粘土質	▮
粘土混り	▯
礫混り	▰

地層記号凡例

記号	地層名
B	埋土
Auc	粘土層
Aus	砂層
Aug	砂礫層
Ac	粘土層
As	砂層
Asq	砂礫層
Alg	砂礫層
Als	砂層
Dc	洪積層



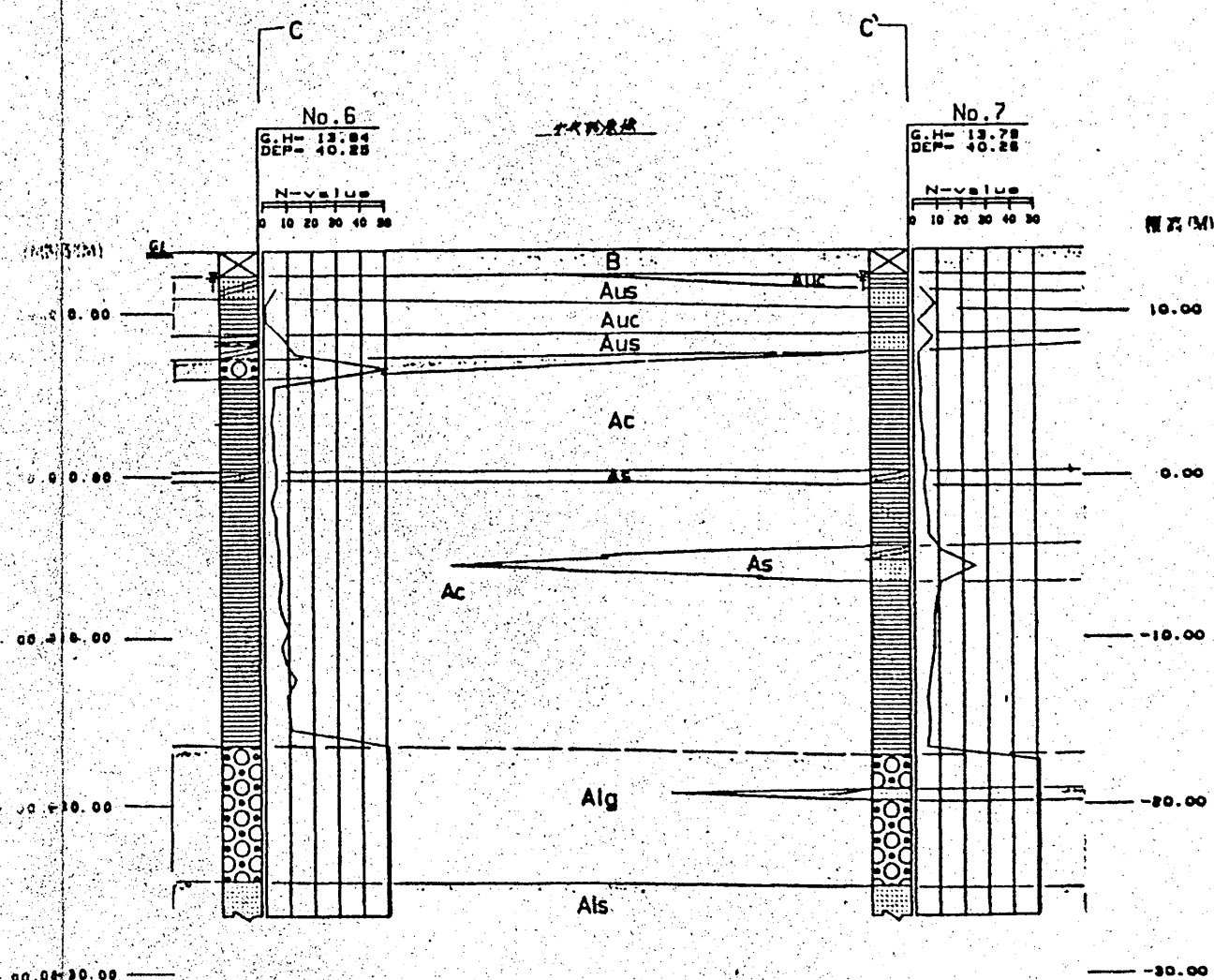
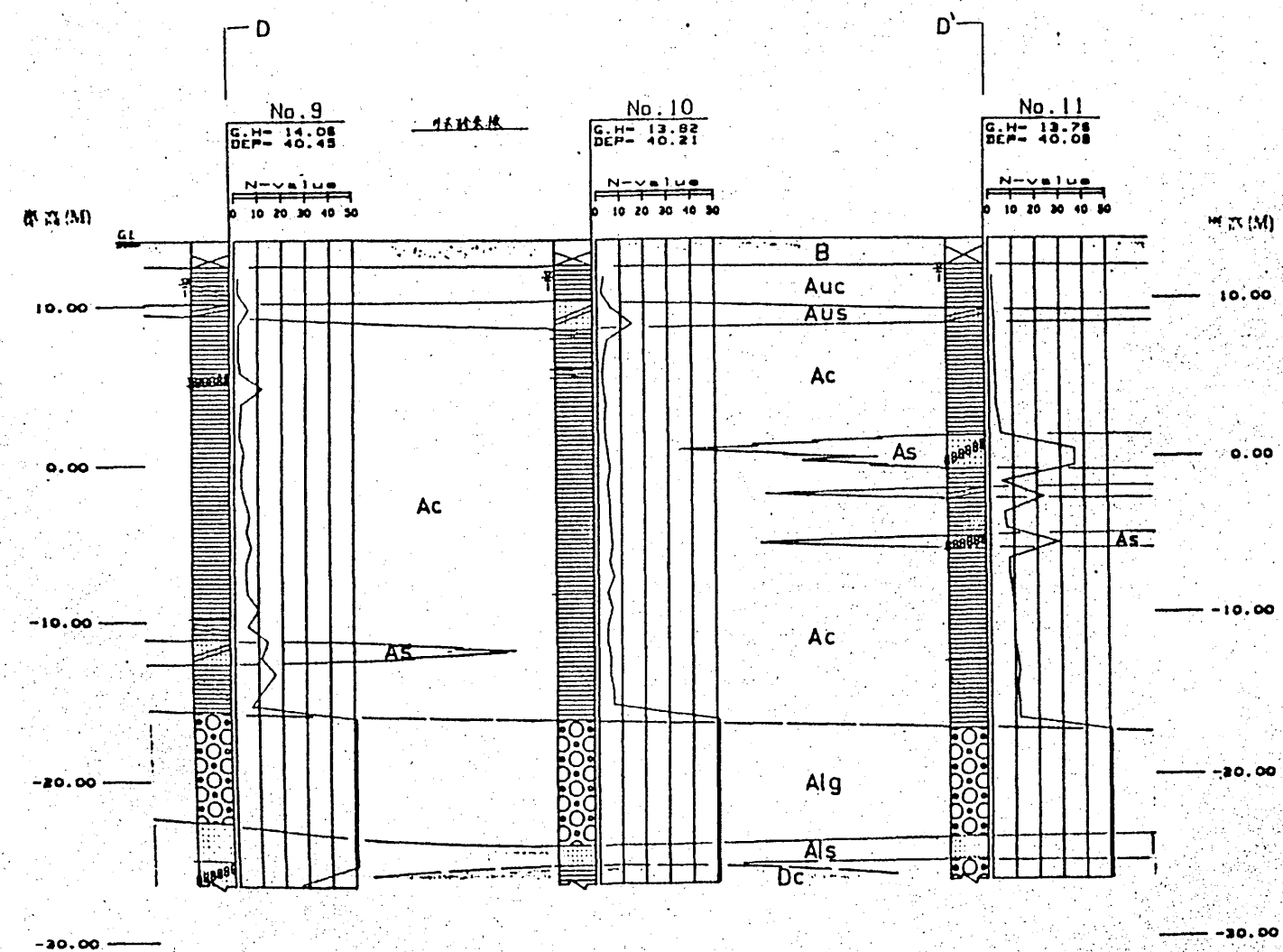
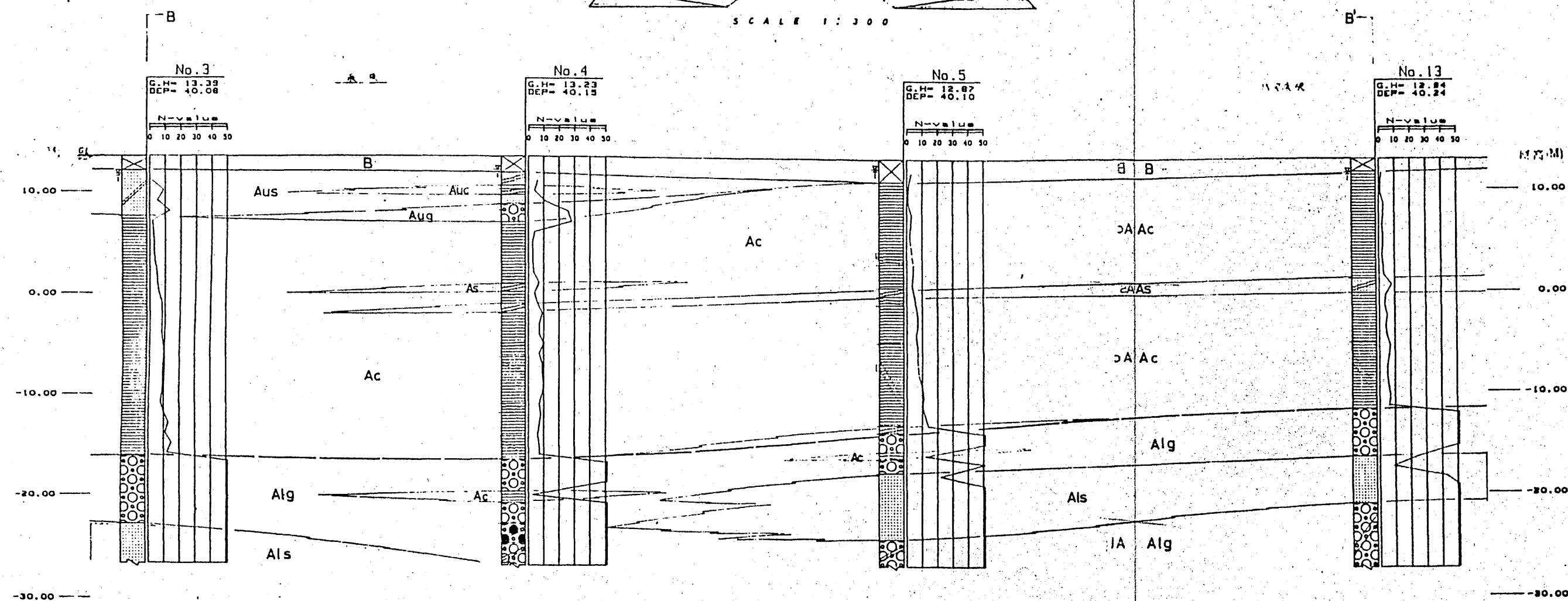
地層想定断面図
SCALE 1:300



第2期工事
中央診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 係長 係員	図面名 土質柱状図 - 1	縮尺 1:300	設計番号	図章	図番
			作成 56年7月 日		
株式会社 伊藤 喜三郎 建築研究所					

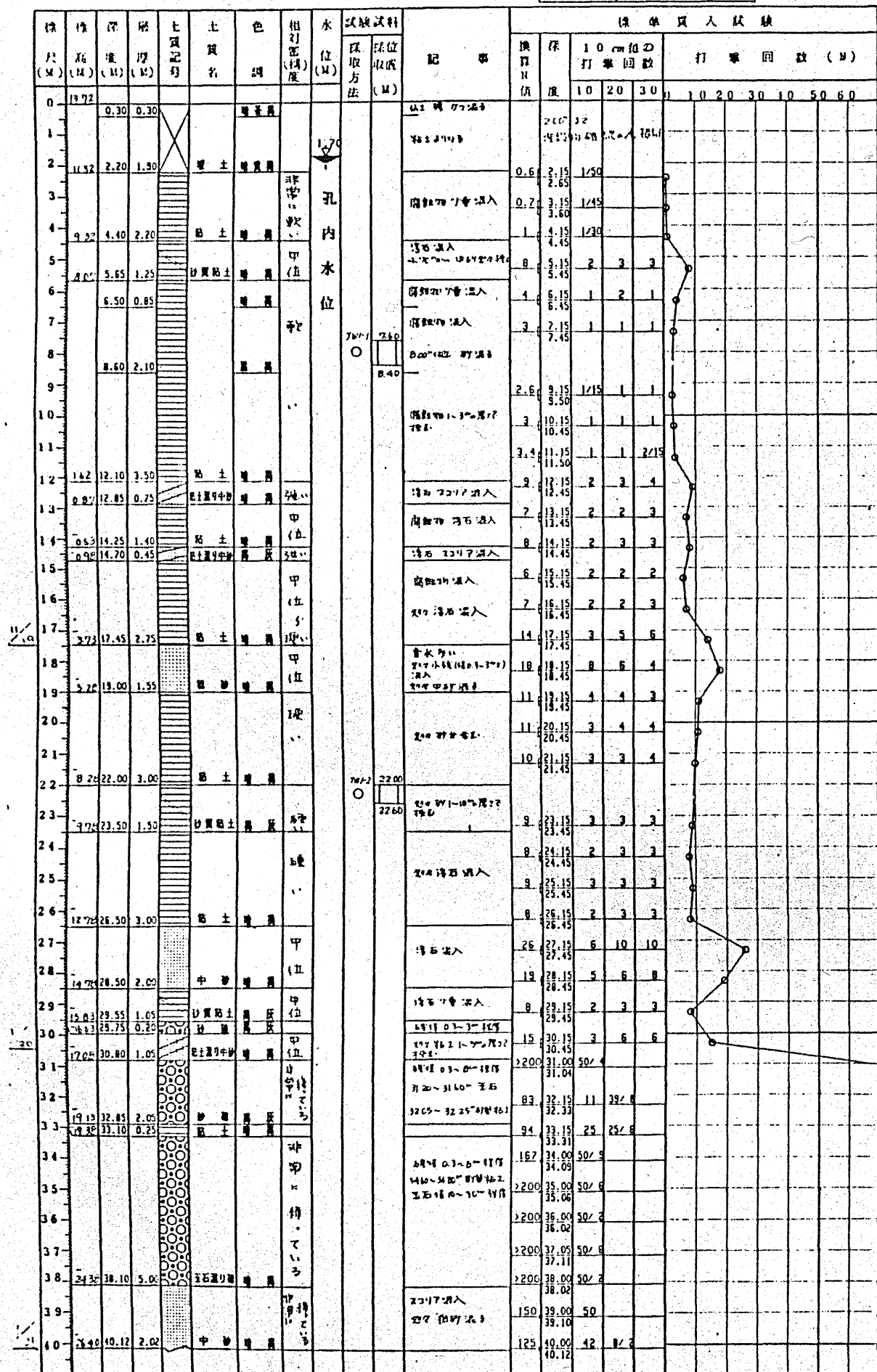
地層想定断面図
SCALE 1:300



第2期工事
中央診療棟

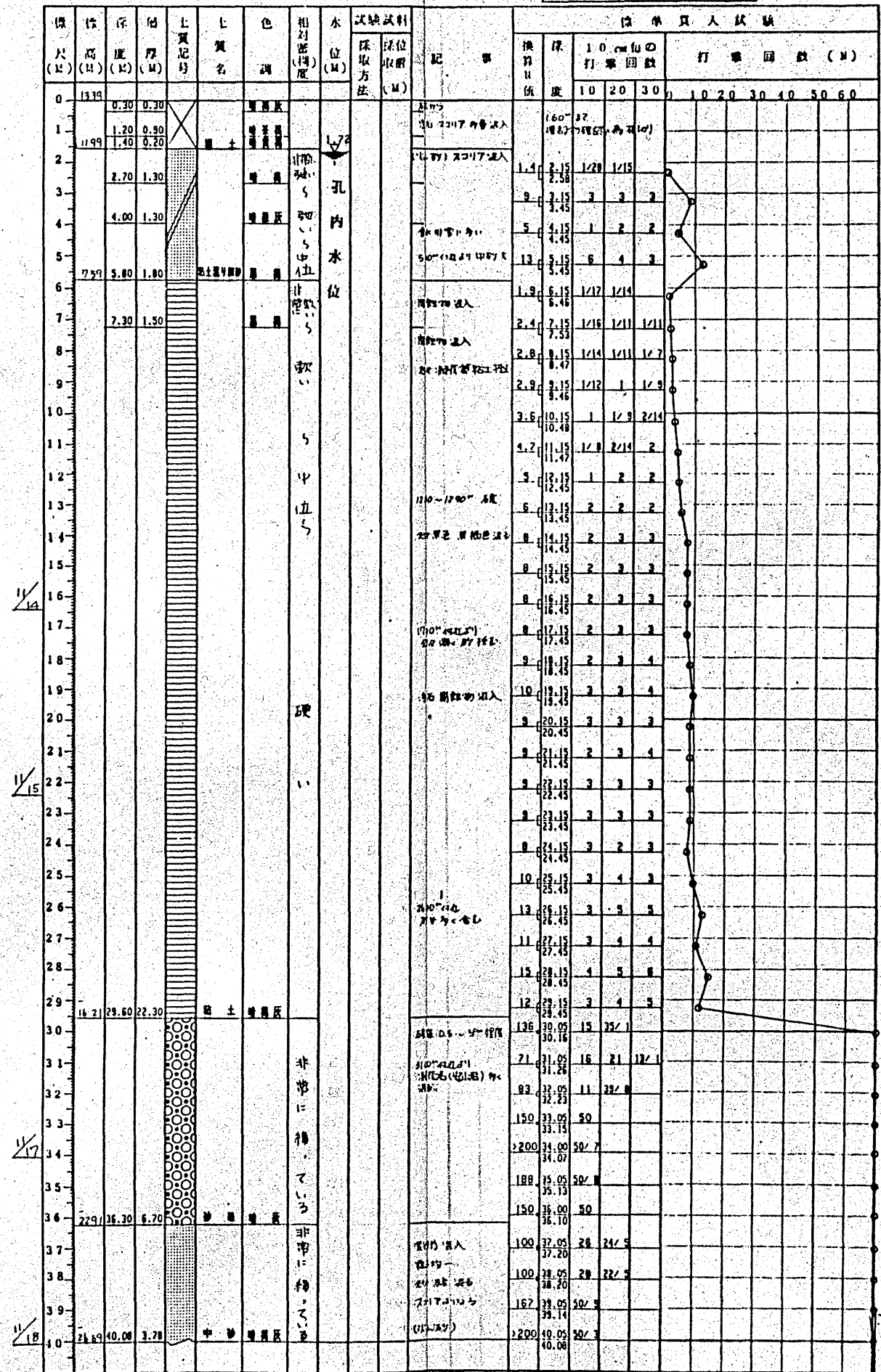
建設事務局		小田原市立病院 建設		工事設計図	
局長	係長	係員	土質柱状図 - 2	1:300	設計番号
印	印	印	作成 56年7月 日	印	印
株式会社 伊藤 喜三郎 建築研究所			二階建て土質柱状図 図2.2.1.1 二階建て土質柱状図 図2.2.1.2		

土質柱狀断面図

[illegible]

土質柱狀断面図

姓名	小田原市立特別支援学校工事中野調査				調査係長	村木 俊郎	記号	111414 (111414)
調査地	小田原市 久野 46				年	3	月	11
調査員	S. R. L. (10)	40M08	監	11	11	14	日	11
収録方法	ハンドヘルドタイプ	収録時間	66 分	11	11	18	日	11

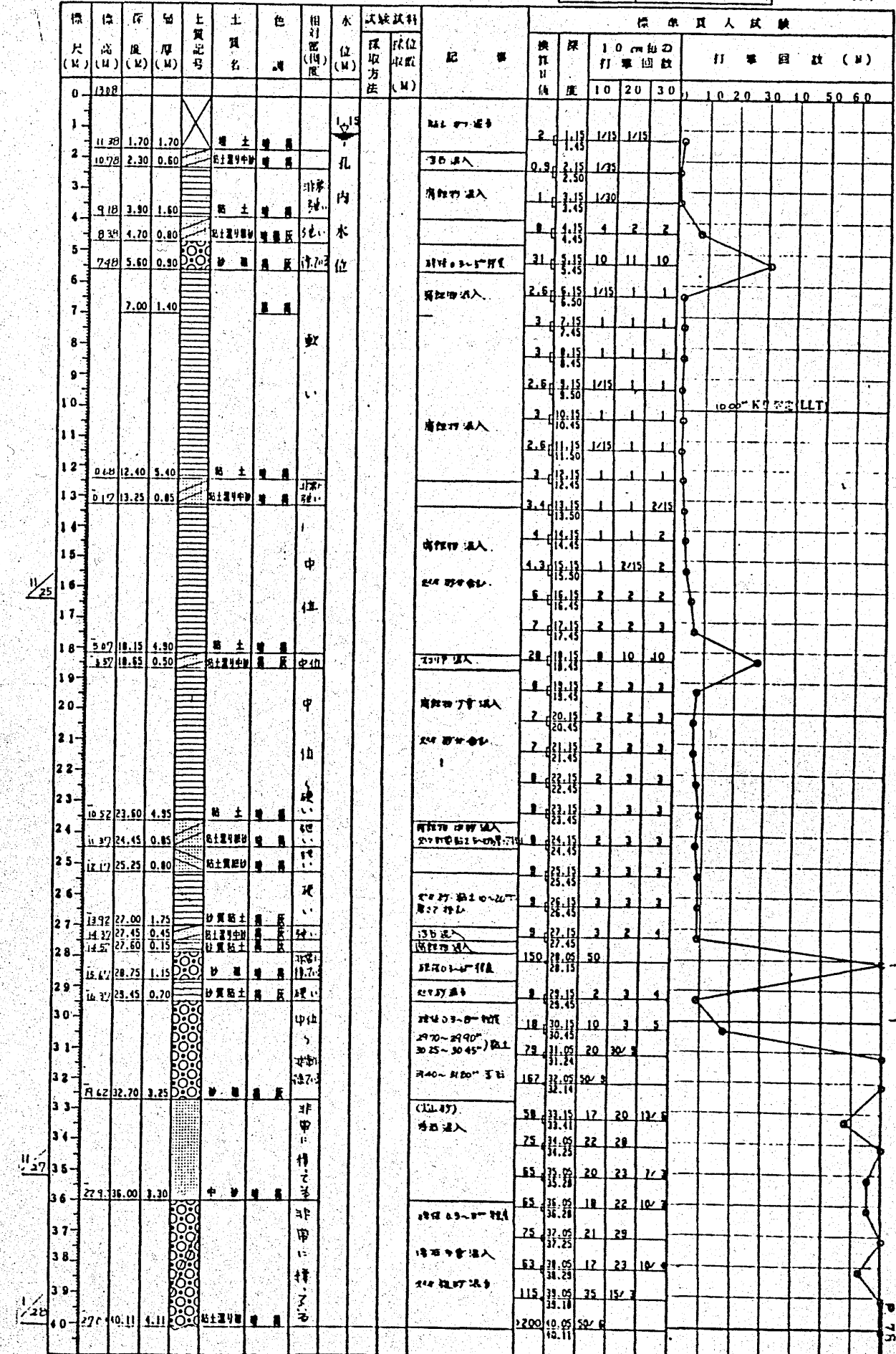


土質柱狀断面図

姓名	小田原市立病院看護士中井貴彦				
居住場所	小田原市大野46				
年齢	36	性別	男	2	孔
入学年月	5.10.1	入校月日	40.11	6	11月25日
退学年月	11.10.27	退校月日	86.11.10	2	11月28日

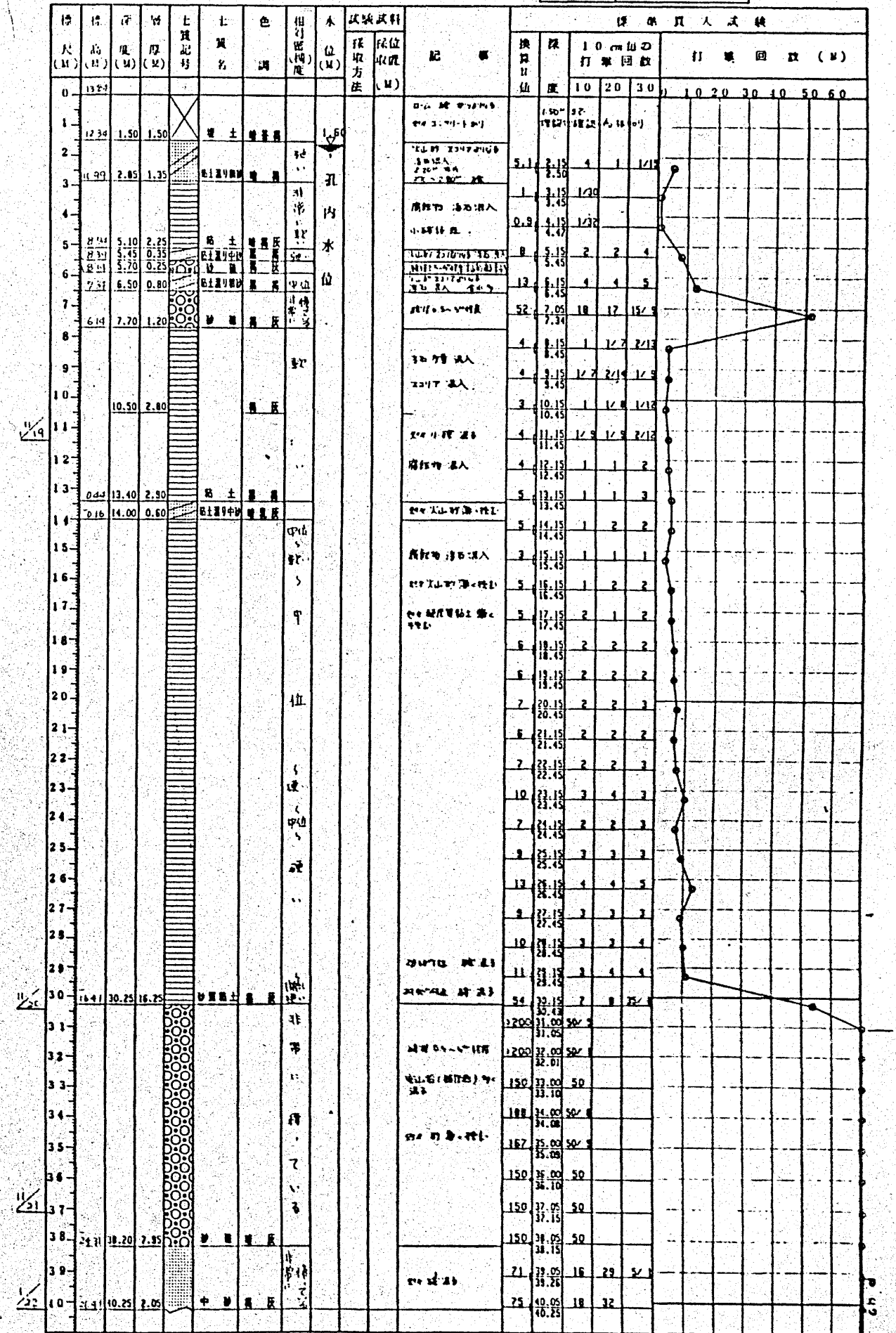
調査年月	中 島 幸 雄	
川	ツルミ技術 株式会社	
調査番号	21	052

資料採取方法 参考
 2号 603号 (資料番号)
 1-1 2-1 3-1 (資料番号)
 1-1-2 2-1 3-1 (資料番号)
 1-1-2 2-1 3-1 (資料番号)



土質柱狀断面図

姓名	小田原忠雄 株式会社工務十社 主任				
所在地	小田原市金町 16 区 6 号				
調査者	R. L. 山本	40 年 7 月	日	11 月 19 日	
調査時間	11月19日	16 時 30 分	迄	11月22 日	

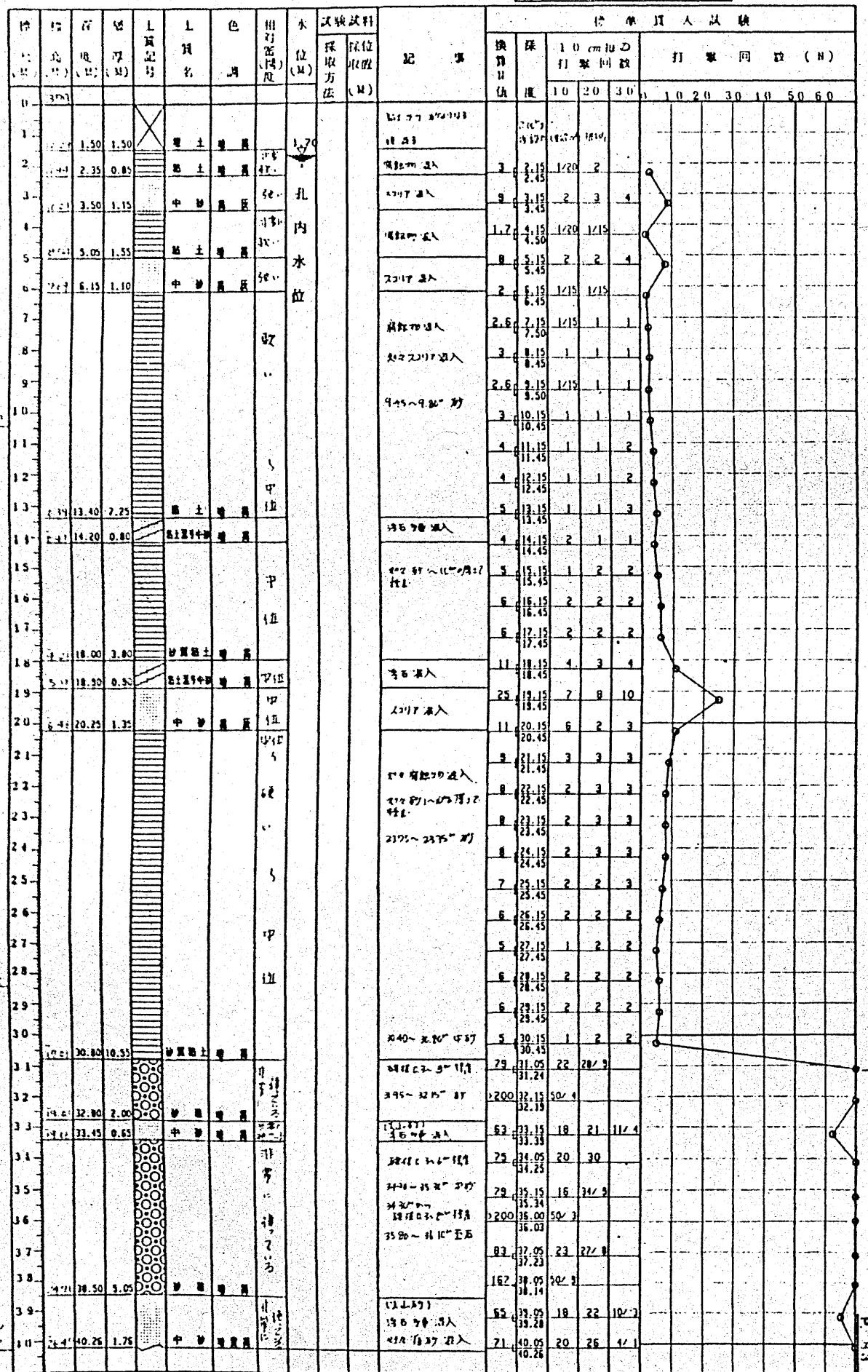


土質柱状断面図

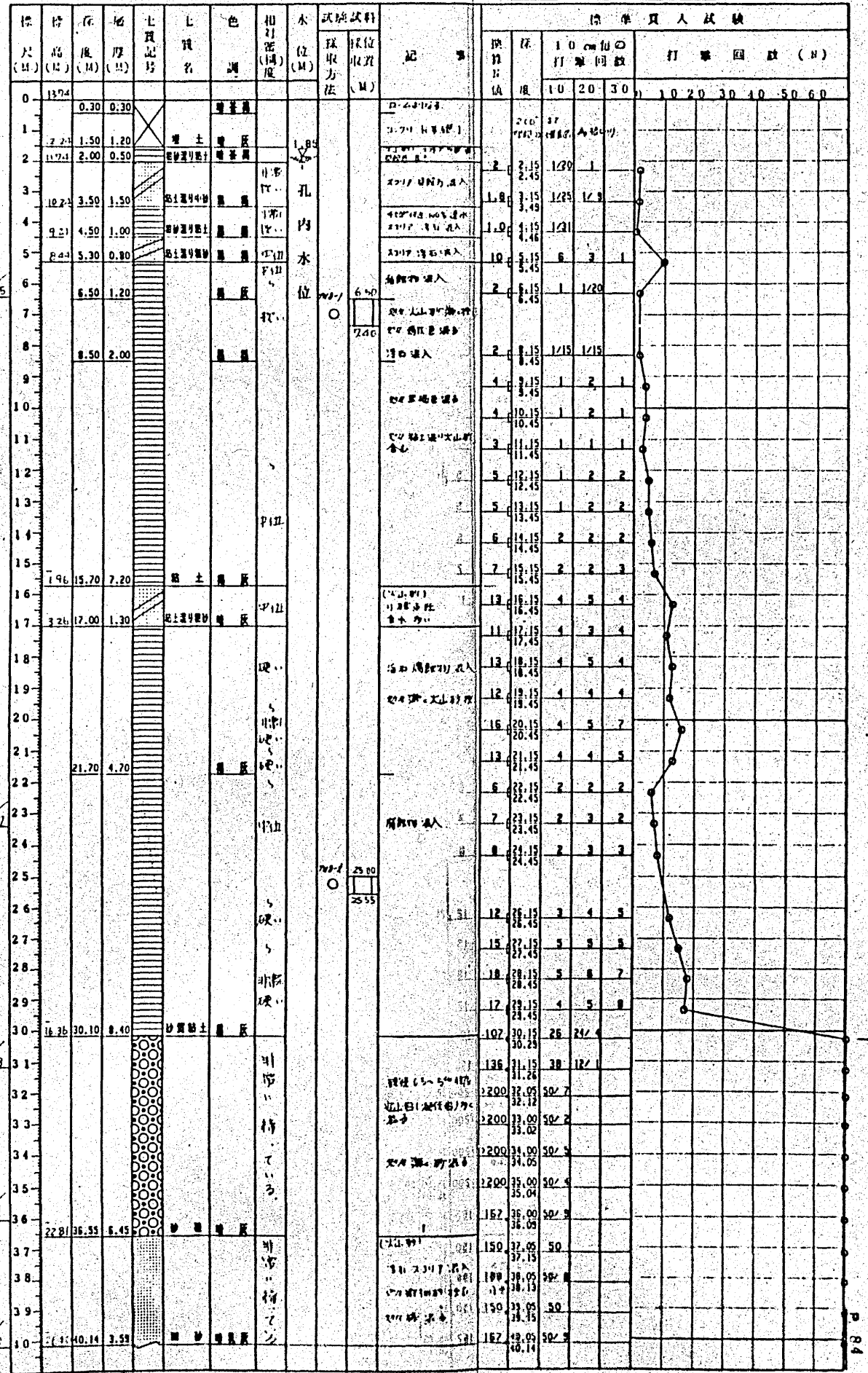
土質柱状断面図

土質柱状断面図

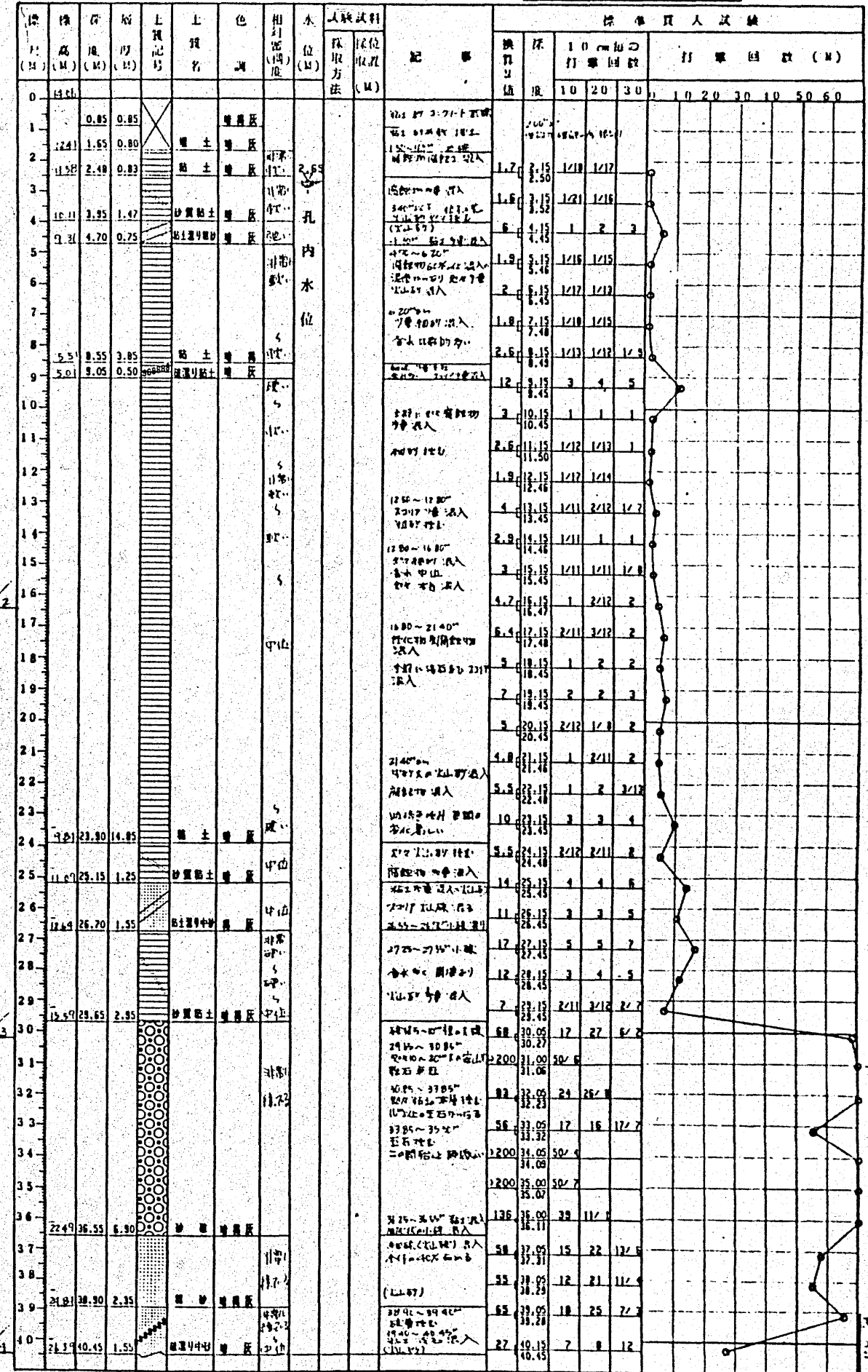
調査地点	調査方法	調査者	調査日
小田原市立病院建設工事土質調査	標準貫入試験	ワイルニ技術株式会社	12月11日
調査番号	052		



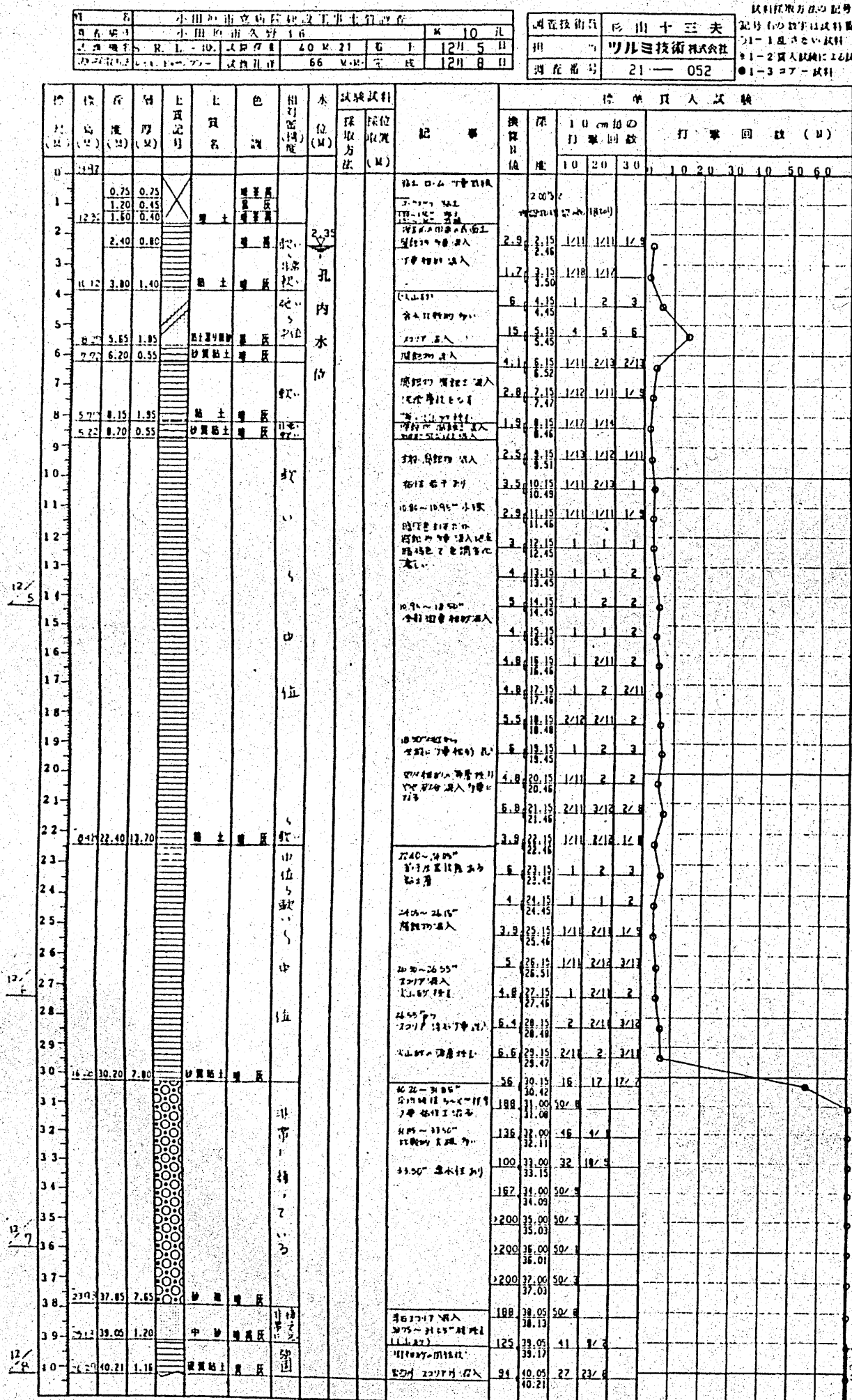
調査地点	調査方法	調査者	調査日
小田原市立病院建設工事土質調査	標準貫入試験	ワイルニ技術株式会社	12月11日
調査番号	052		



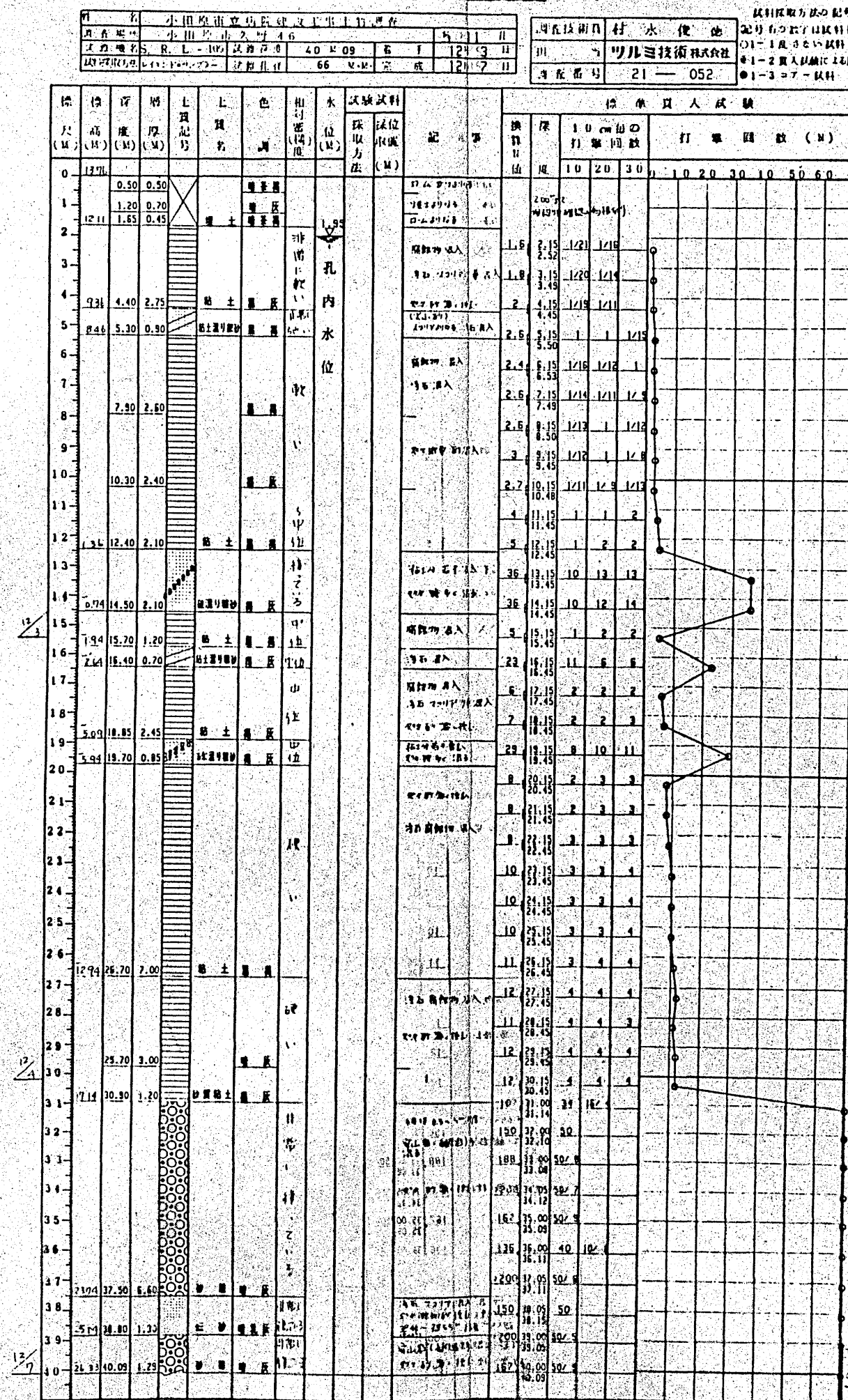
調査地点	調査方法	調査者	調査日
小田原市立病院建設工事土質調査	標準貫入試験	ワイルニ技術株式会社	12月11日
調査番号	052		



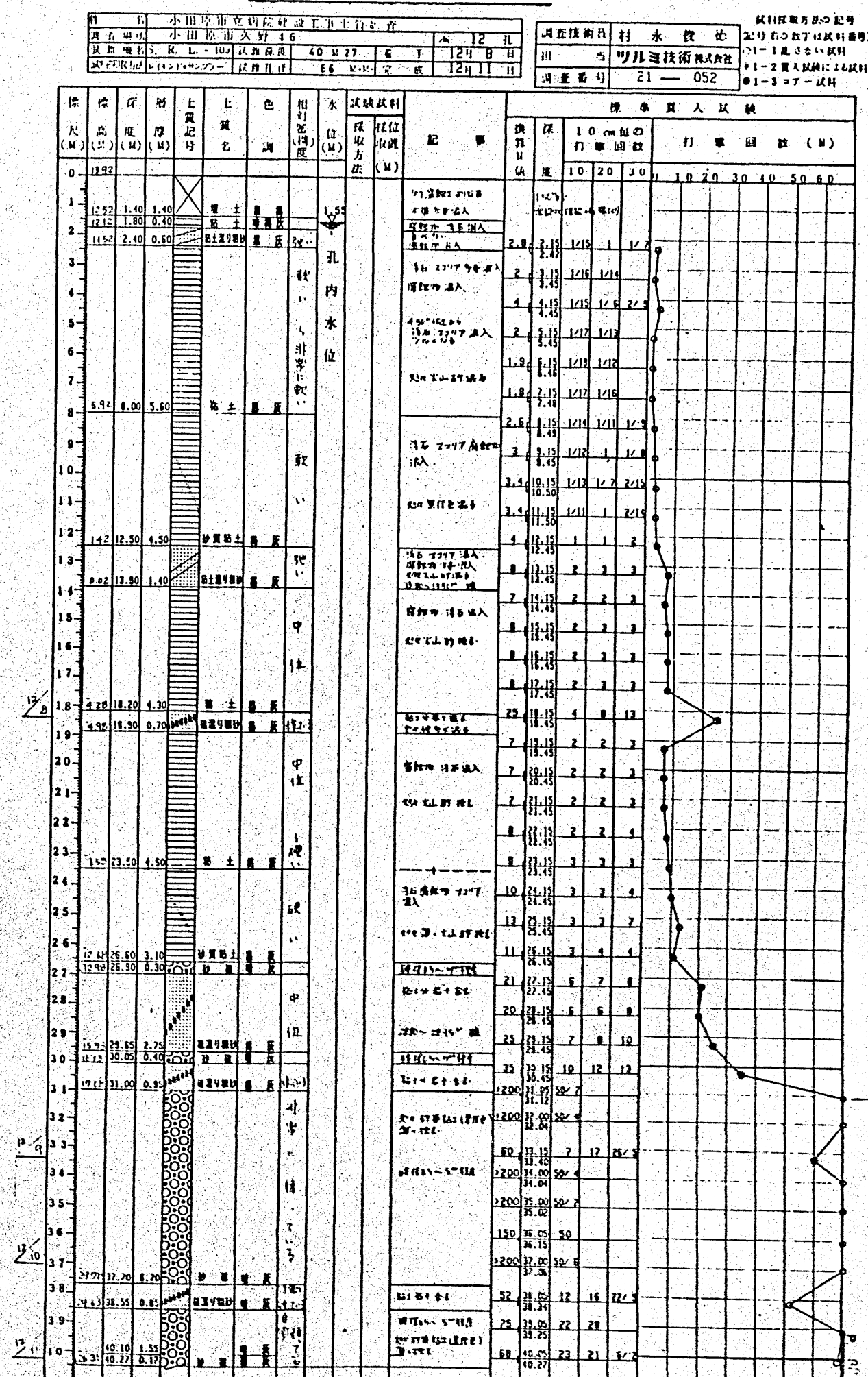
土質柱狀断面図



土質柱狀断面図



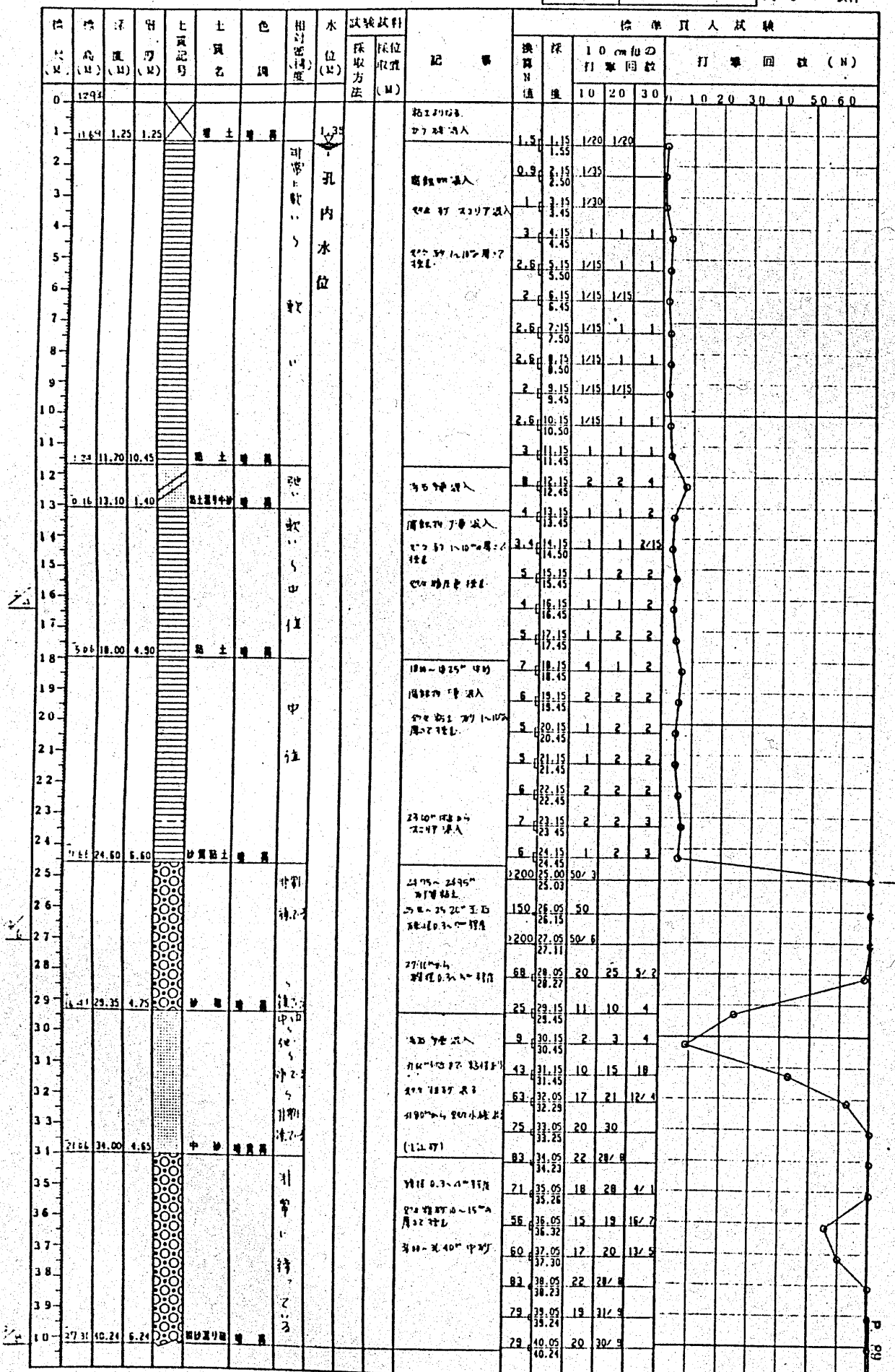
土質柱狀断面図



土質柱状断面図

調査地	小田原市立病院建設工事土質調査	調査者	小田原市土木課	調査日	昭和36年7月4日
調査深度	0.00 - 10.00	調査深度	4.00 M 2.00 M 6.00 M	調査時間	12月 4 日
調査場所	小田原市立病院建設工事	調査場所	小田原市立病院建設工事	調査場所	小田原市立病院建設工事

調査技術員	中島幸雄	調査員	ワルミ技術株式会社	調査番号	21-052
調査方法	標準貫入試験	調査方法	標準貫入試験	調査方法	標準貫入試験



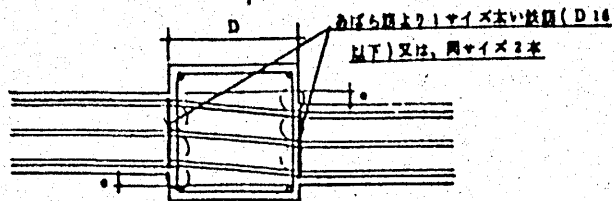
第二期工事
中央診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長	係長	係員	上質柱状図 - 7	1:100	設計番号
昭和36年7月4日	1:1	1:1	1:1	1:1	1:1
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所			建設事務所		

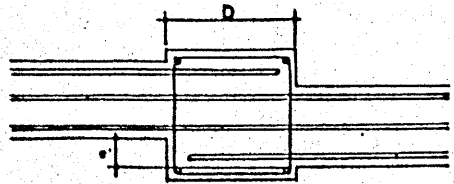


大ばり

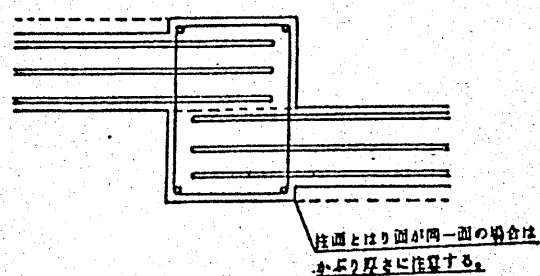
- 曲げがある場合の配筋
平面上でうねりがある場合
(1) ϕ がD/4以内の場合



- (2) ϕ がD/4を超える場合

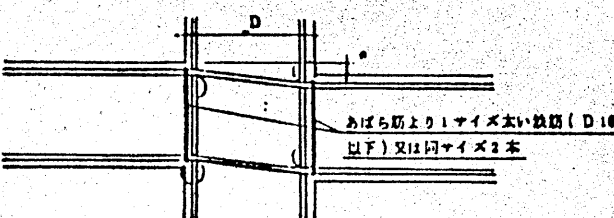


- (3) はり端を曲げる場合

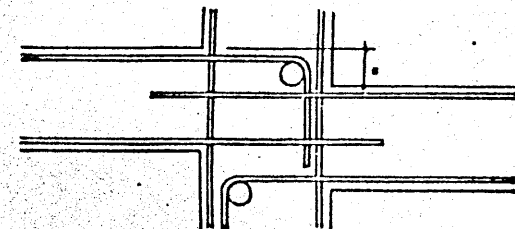


- 図1. 主筋の折曲げがD/4以下であっても、例々にアンカーしてもよい。
2. 00の場合、通し配筋ができるものは、通し配筋としてもよい。
3. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1サイズ太い鉄筋(D16をはえるときはD18)、又は同サイズとする。

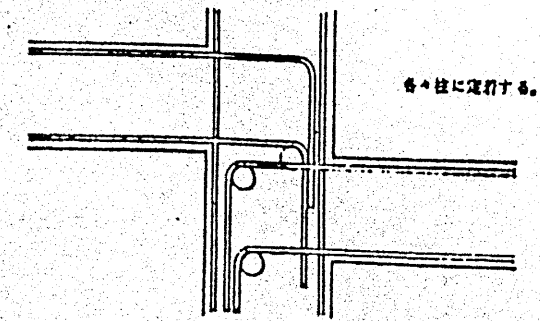
- 高配筋がある場合
(1) ϕ がD/4以内の場合



- (2) ϕ がD/4を超える場合



- (3) はりのせいを曲げる場合

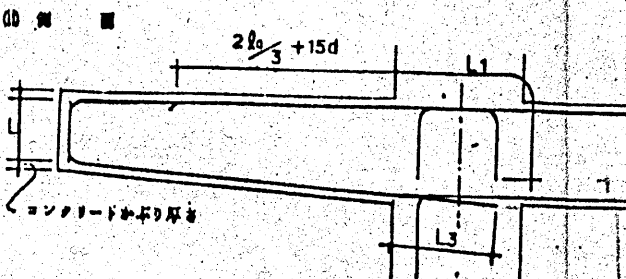
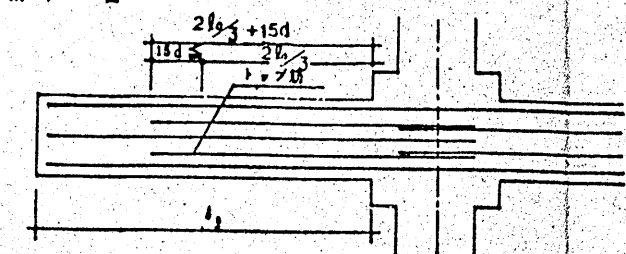


- 図1. 主筋の折曲げがD/4以下であっても、例々にアンカーしてもよい。
2. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1サイズ太い鉄筋(D16をはえるときはD18)、又は同サイズとする。
3. はり端が曲がる場合で高配筋がある場合は、原則として例々にアンカーする。

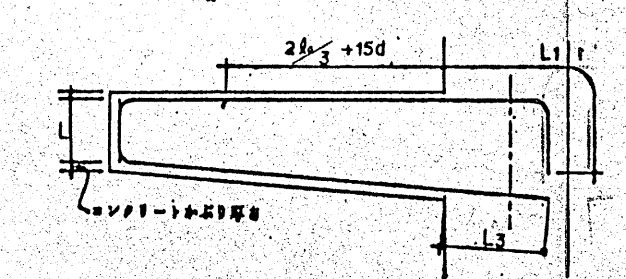
小ばり及び片持ちばり

片持ちばり

- 先端に小ばりがない場合
2. 柱の反対側にもはりがある場合
(1) 平面

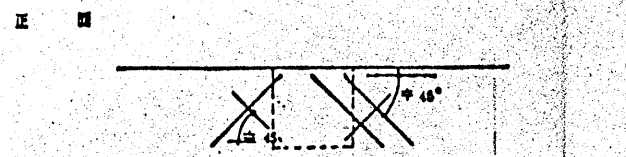
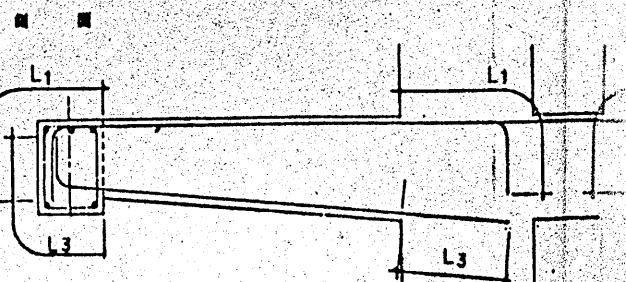
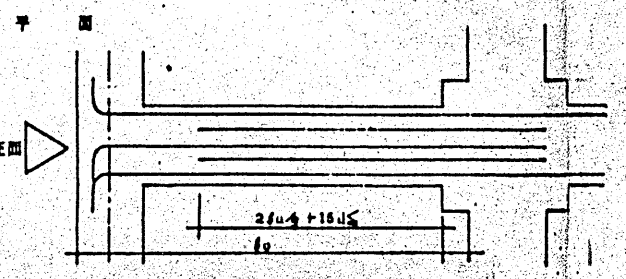


2. 柱の反対側にはりがない場合



- 図1. 主筋の定数は、柱面を越え配筋でアンカーする。
2. 反対側のはりと配筋がない場合には、主筋はアンカー又は引通しのいずれでもよい。
但し全長引通せる場合でも上端筋は2本以上と柱に定数する

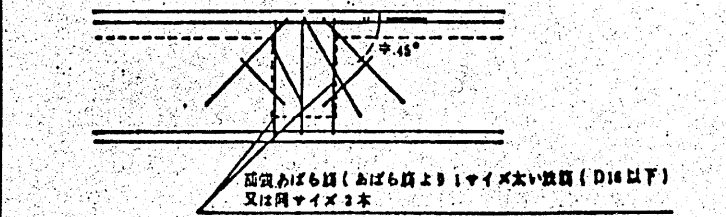
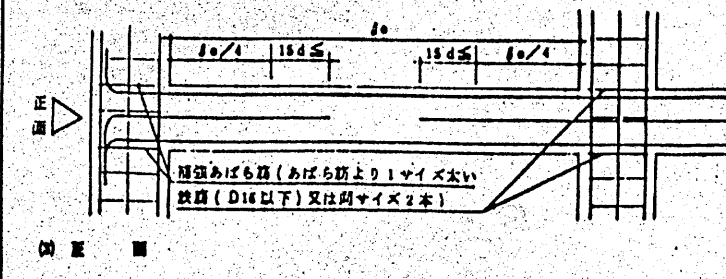
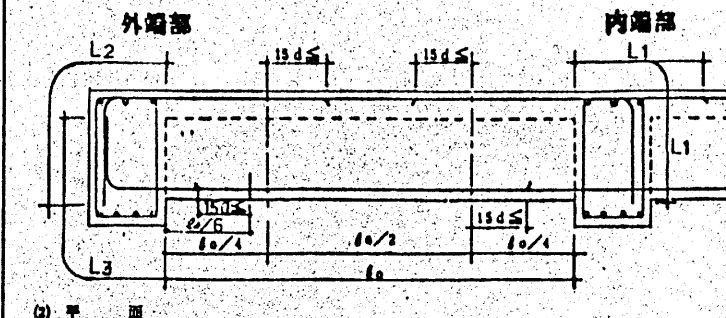
先端に小ばりがある場合



- 小ばりへのアンカーは、小ばり中心より外側で曲げ、又は柱方向のみで不足の補強に斜め力に定数する。

小ばり

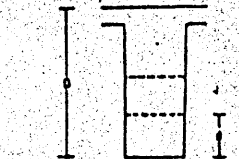
- (1) 平面



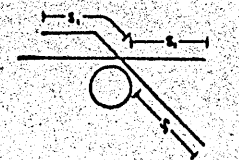
- 図1. 大ばりへのアンカーは、大ばり中心より外側で曲げ、又は、柱方向のみで不足の場合は、斜め力に定数する。
2. 小ばり取付部のあばら筋を省略しないこと。
3. 小ばり主筋のアンカーは、かぶり厚さが十分とれる場合を除き、原則として水平アンカーは避けること

はり貫通孔補強

- 補強事項
1. 孔の径が、はりせいの1/4以下の場合には補強筋を必要としない。
ただし、孔の径が150以上となる場合はB形はりの補強とする。
2. 孔の径が150以下の場合には、外周円孔に於いて各相対配筋を適用する。
3. 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近とし下記による。



4. 孔の中心位置は柱及び交するはり(小ばり)の面から1.2D以上はなすことを原則とする。
5. 孔が斜交する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 補強筋は原則として主筋の内側とする。
7. 鉄筋の定数は

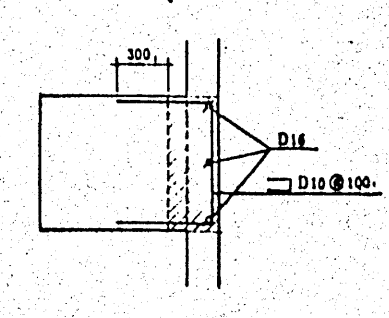


8. たる筋はあばら筋とみなす。

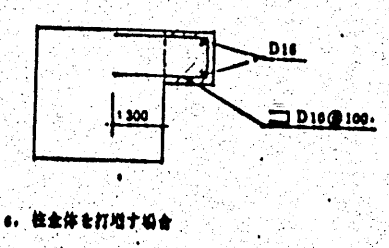
柱はり打ち増し補強筋

柱の打ち増し

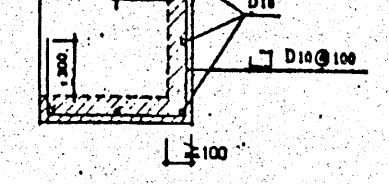
2. 柱が柱からはずれる場合



3. レッパラー、防火扉等を設置する施設の場合

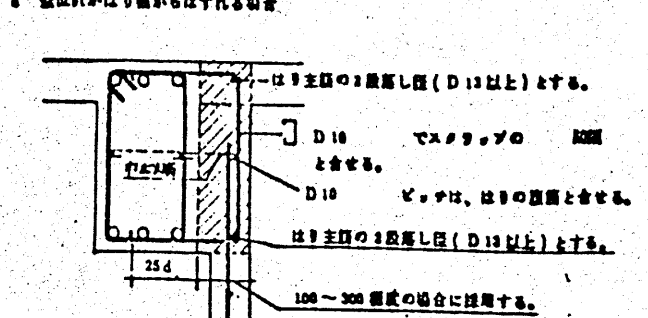


4. 柱全体を打ち増しする場合

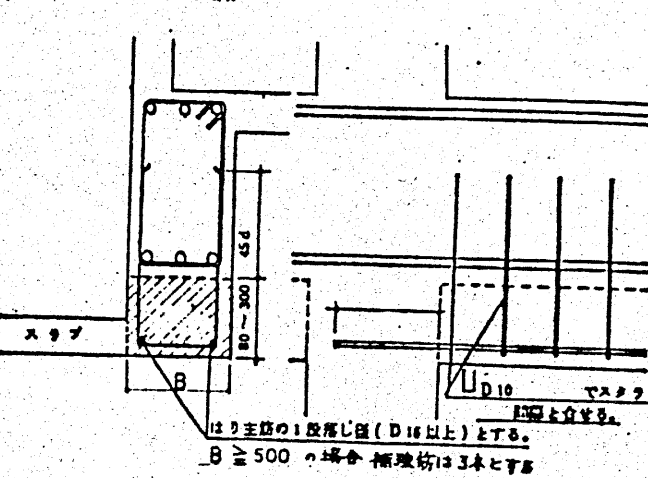


ふかしばり

2. 柱位置がはり端からはずれる場合



3. はりのせいがよめられる場合



適用範囲	孔周部補強筋	配筋図
$\phi \leq 100$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ な し 上 下 8・T・P な し	
$100 < \phi \leq 150$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ 2-(2-D18) 上 下 8・T・P 1-(2-D18)	
$150 < \phi \leq 200$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ 2-(2-D18) 上 下 8・T・P 3-(2-D18)	
$200 < \phi \leq 250$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ 2-(2-D18) 上 下 8・T・P 4-(2-D18)	
$250 < \phi \leq 300$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ 2-(2-D18) 上 下 8・T・P 4-(2-D18)	
$300 < \phi \leq 400$	な な な 4-(2-D18) た て 2-(2-D18) よ こ 2-(2-D18) 上 下 8・T・P 4-(2-D18)	

172



	甲 爪 盤 下 側 1/4	-----	B1FL.	-	2.53Q
	↑	-----		-	4.33Q
	↑	-----		-	2.03Q
	↑	-----		-	5.33Q
	↑	-----		-	3.03Q
	↑	-----		-	3.53Q

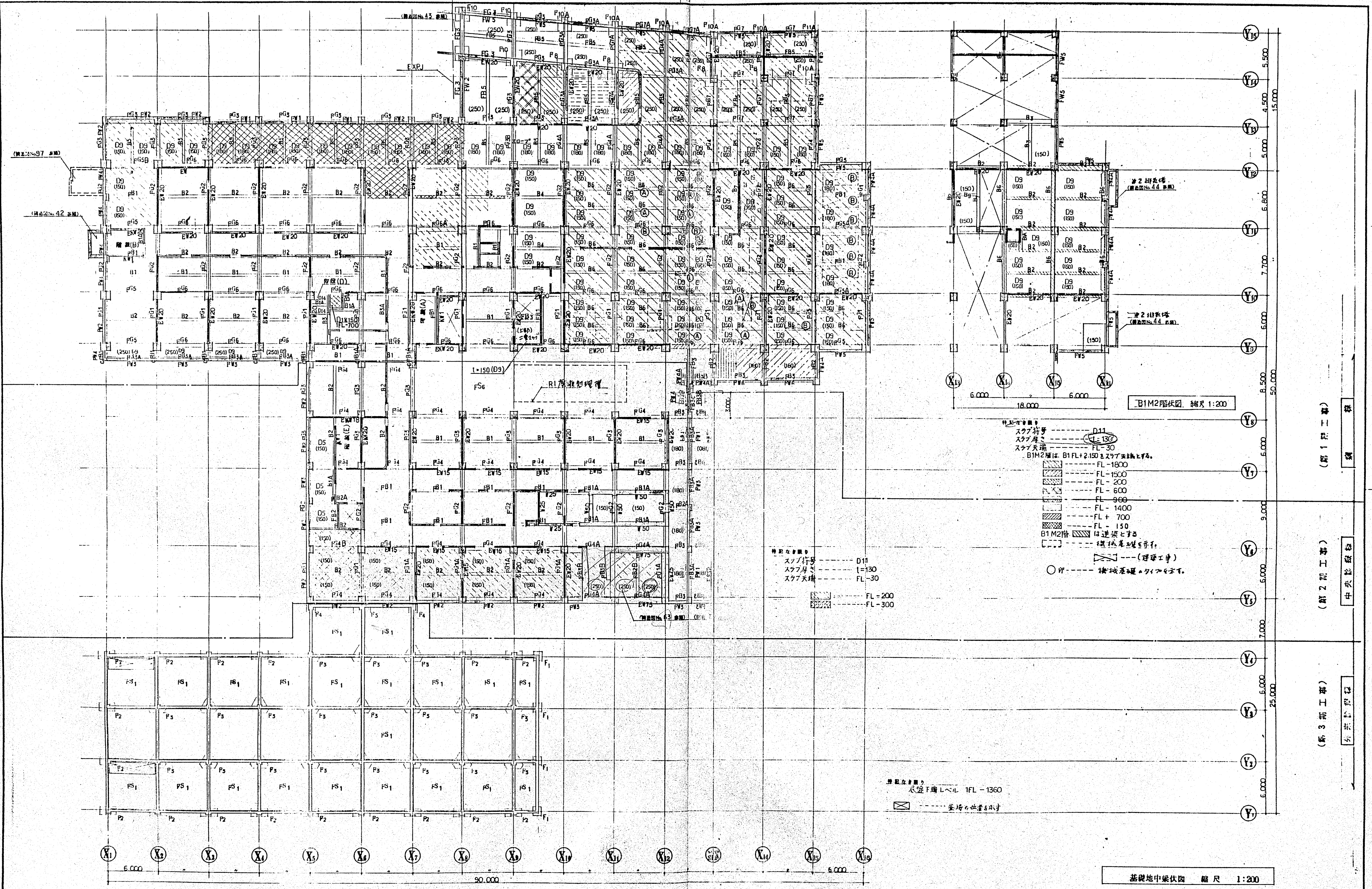
※ 以下月開休日ハ外 日18
 ☒ ----- 業務休業日ナシ

校 校

中央

事 工 湖 二 第
棟 療 診 穴 中

15



(第1期工事)

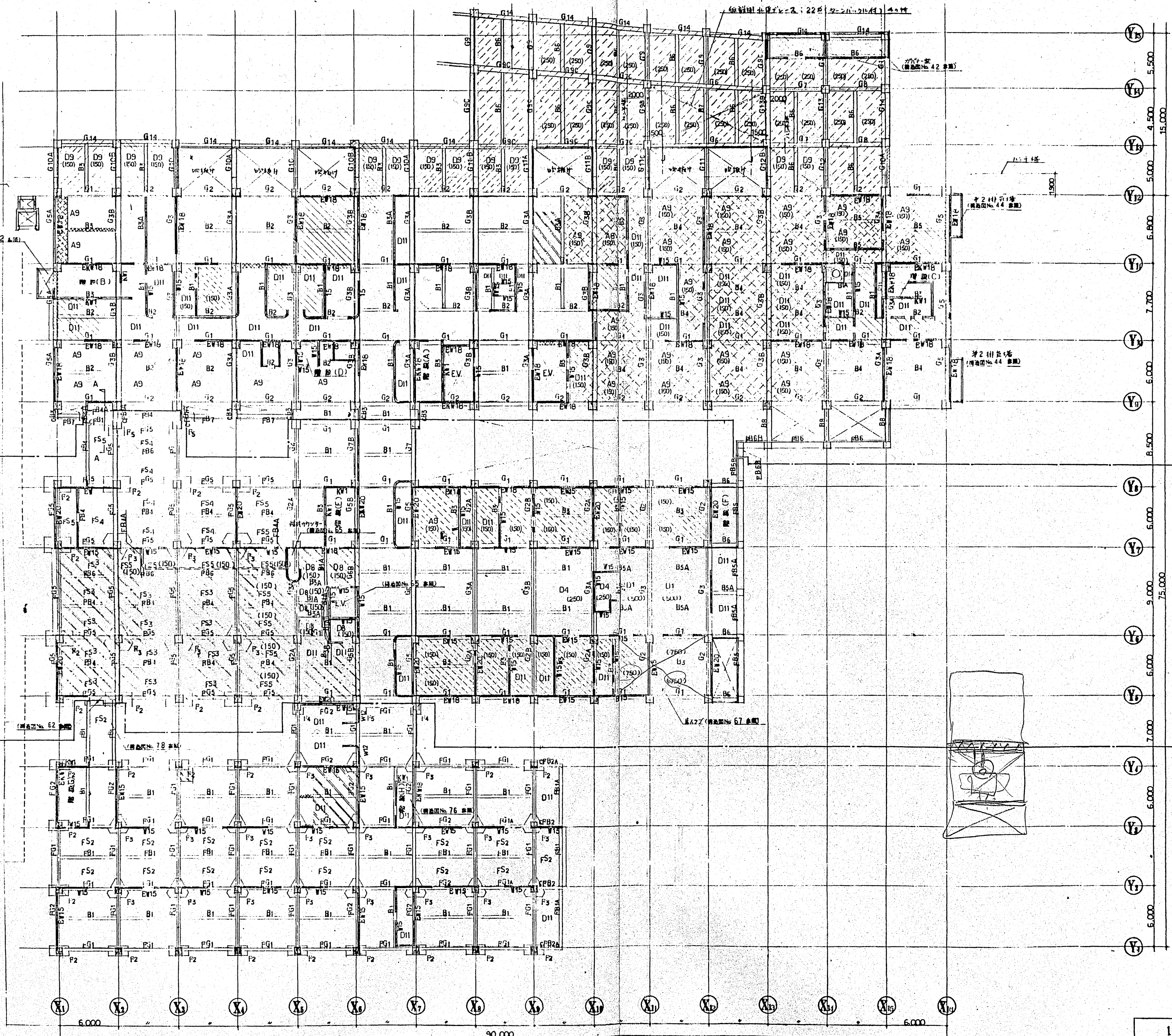
(第2期工事)

(第3期工事)

中央診療棟

中央診療棟

中央診療棟



特記事項
スラブ厚さ A11
スラブ厚さ I=130
スラブ天端 FL-30

FL-300
FL-300
FL-150
FL-200
FL+50

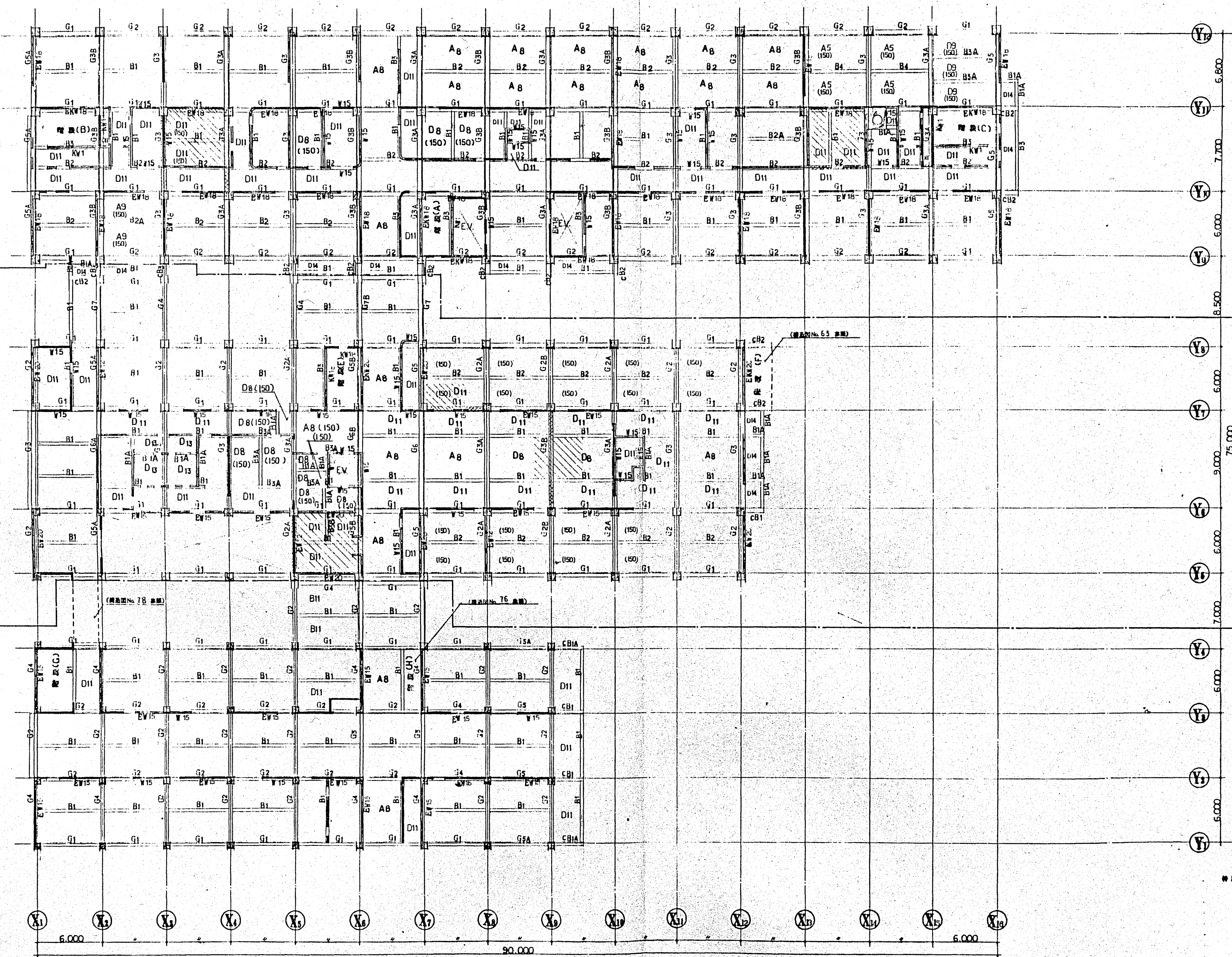
特記事項
スラブ厚さ A11
スラブ厚さ I=130
スラブ天端 FL-30

FL-200
FL-60

特記事項
スラブ厚さ A11
スラブ厚さ I=130
スラブ天端 FL-30

FL-60

1階築伏図 縮尺 1:200 第2期工事 中央診療棟



特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150

特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150

特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30

2階梁伏図 縮尺 1:200

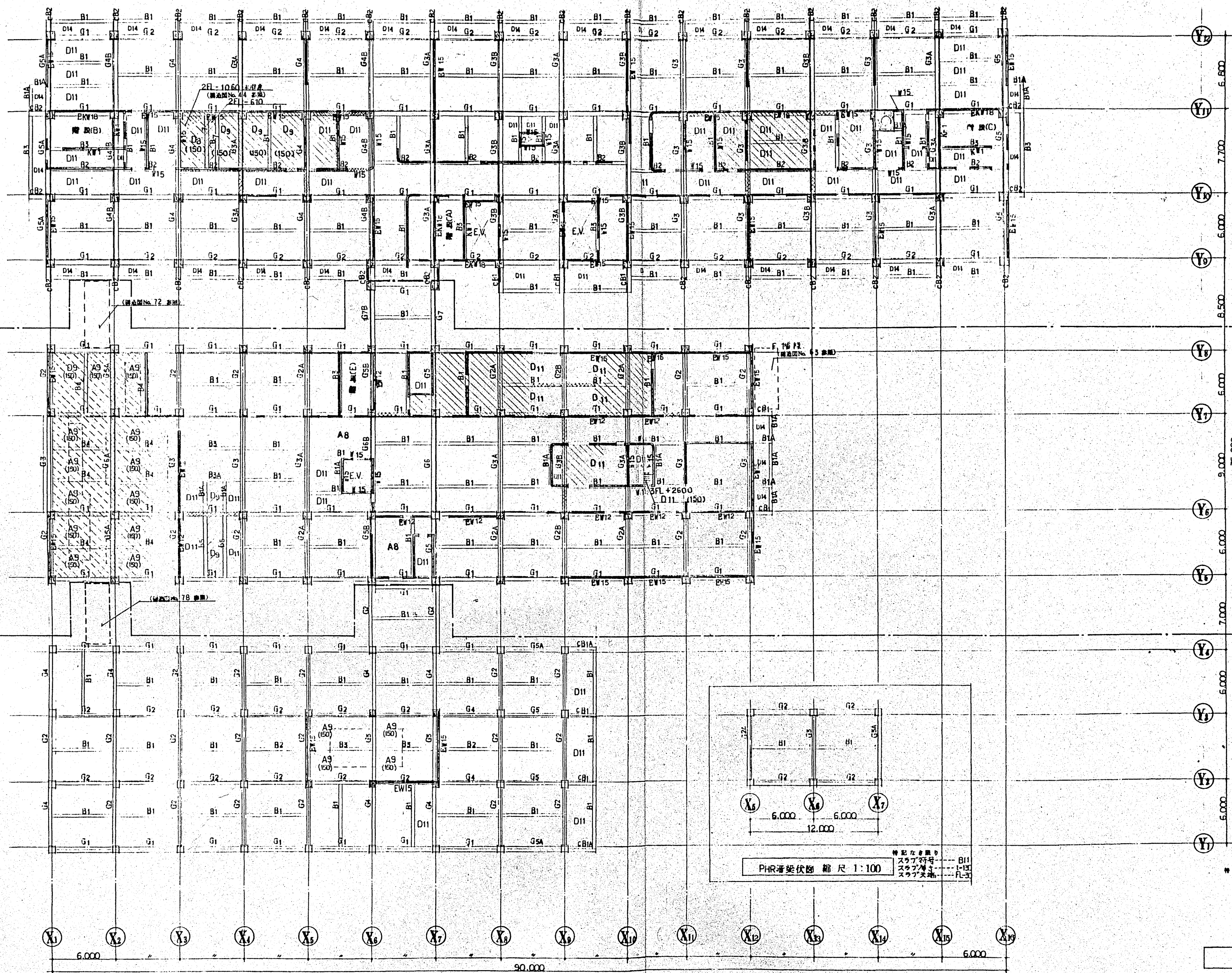
(第1期工事) 概略

(第2期工事) 概略

(第3期工事) 概略

第二期工事
中央診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 係長 係員	2階梁伏図	縮尺 1:200	設計番号	図面番号	18
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所		作図 56年7月		18	



特記なき限り
スラブ符号 --- A11
スラブ厚さ --- t=130
スラブ天端 --- FL-30
スラブ底端 --- FL-150

特記なき限り
スラブ符号 --- A11
スラブ厚さ --- t=130
スラブ天端 --- FL-30
スラブ底端 --- FL-100

特記なき限り
スラブ符号 --- B11
スラブ厚さ --- t=130
スラブ天端 --- FL-50

3階梁伏図 縮尺 1:200

(第1期工事)

(第2期工事)

(第3期工事)

中央診察棟

中央診察棟

中央診察棟

第3期工事
中央診察棟

建設事務局
局長 係長 係員
高井 伊藤 三郎

小田原市立病院建設

工事設計図

図面番号 3階梁伏図 縮尺 1:200 設計番号 作図56年7月日 図面番号 19